

第1回京都会議

コンセプトノート

参考：京都哲学研究所ホワイトペーパー2025（討議用ドラフト）

KIP

Kyoto Institute of Philosophy



会議の目的とコンセプト①

京都会議は根本的な価値の問題を探求する場です。

従来の問題解決のアプローチは
有効ではない

- 経済成長と技術発展は世界に未曾有の豊かさをもたらした一方で、地政学的緊張や気候変動、AIの進化といった課題をより複雑化・深刻化させています。
- これらの相互に関連する複合的な課題（Polycrisis）は、もはや従来の技術的・政策的アプローチだけでは解決できません。

価値を問い直す必要性

- 複雑化・深刻化した課題の根源に立ち向かうには、私たちが進むべき方向性そのものを問い直す必要があります。
- こうした根源的な問いの核心にあるのは、私たちが何を重要で、望ましく、正しいと見なすかという「価値（Value）」です。
- 今こそ、この「価値」をいかに再定義し、共有していくかが問われています。

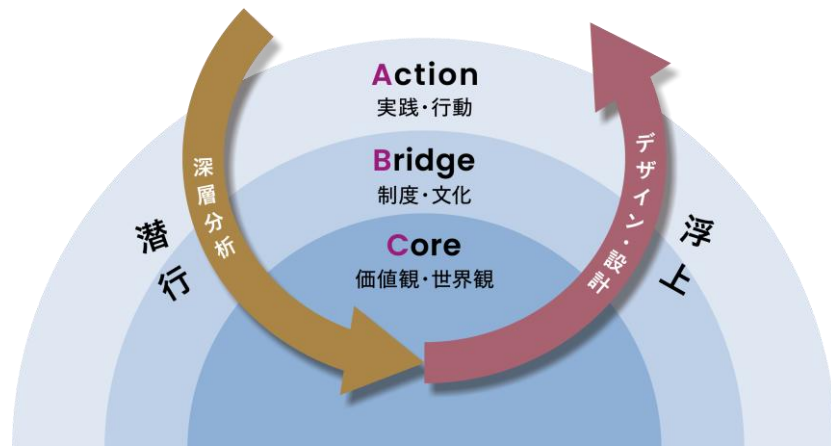
価値を巡る問題のメカニズム

- 本会議は、現代の課題を駆動するメカニズムを二つの力学の観点から捉えます。
 - 「分断（Fragmentation）」：あらゆる場における既存価値の衝突
 - 「変容（Transformation）」：新技術などがもたらす価値観の再編



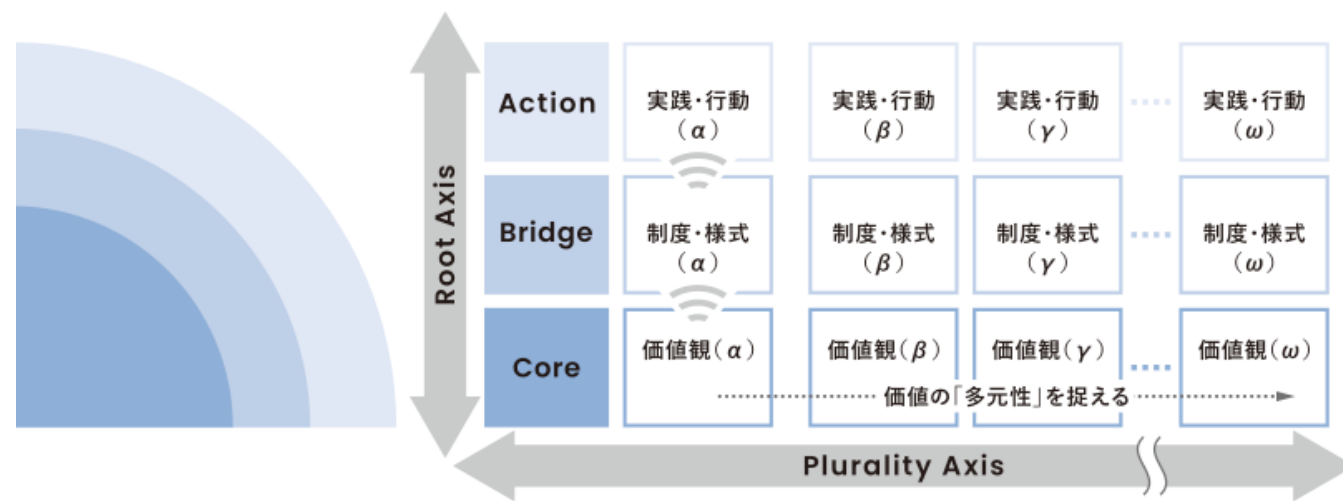
会議の目的とコンセプト②

分断と変容の複雑な力学を乗り越えるための思考法として「ABCモデル」を提案しています。



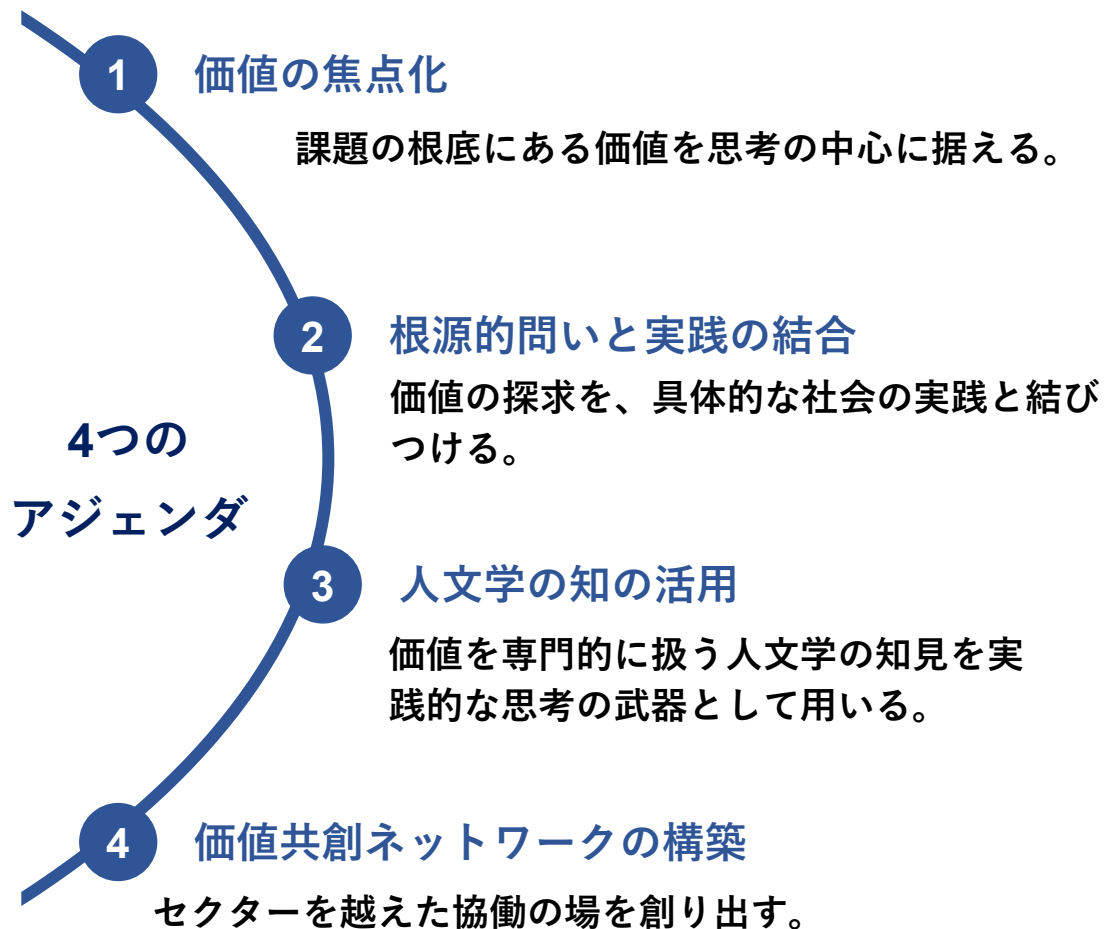
- ABCモデルは社会現象を、目に見える実践（Action）、その根底にある価値観（Core）、両者を繋ぐ制度や文化様式といった媒介（Bridge）の三つのレベルで捉えます。
- これにより、問題の根本原因へと思考を深める「潜行」と、新たな価値から未来を構想する「浮上」の往還運動を促すようにデザインされています。

- ABCモデル（縦軸）に、価値の「多元性」を捉えるための「多様なステークホルダー」（横軸）を掛け合わせることで、フレームワークは二次元の「価値関係マトリックス」へと拡張されます。

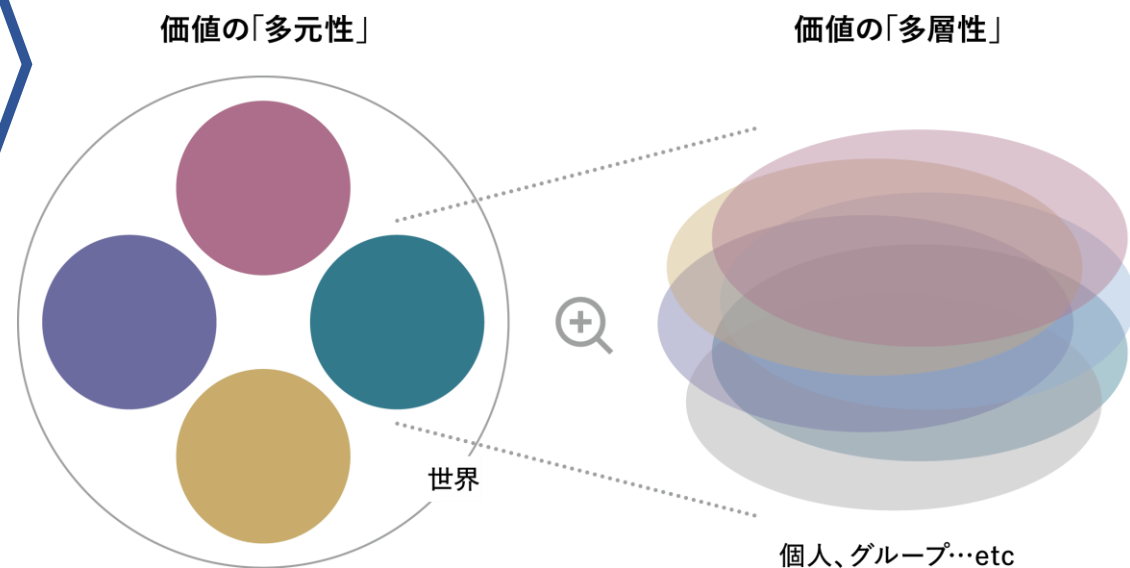


会議の目的とコンセプト③

本会議ではホワイトペーパーが提示する以下の4つのアジェンダを実践の指針とします。

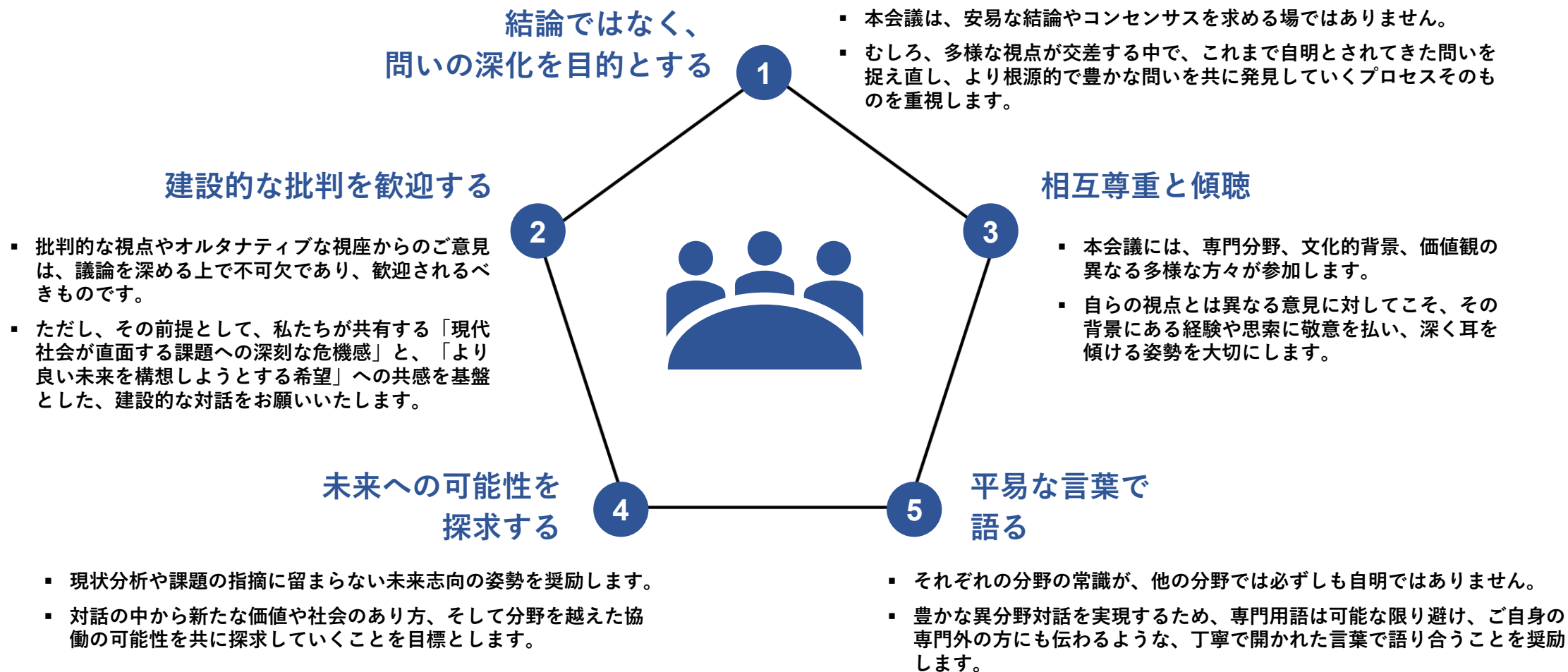


これらのアジェンダへの取り組むことで
価値多層社会の実現を目指す



対話のためのグラウンドルール

京都会議がセクターを超えた対話の場となるように、次の5つのグラウンドルールを設定します。



京都会議プログラムのコンセプト設計 – 概要

Day 1 (9月23日)

Day 2 (9月24日)

AI時代における社会の再設計

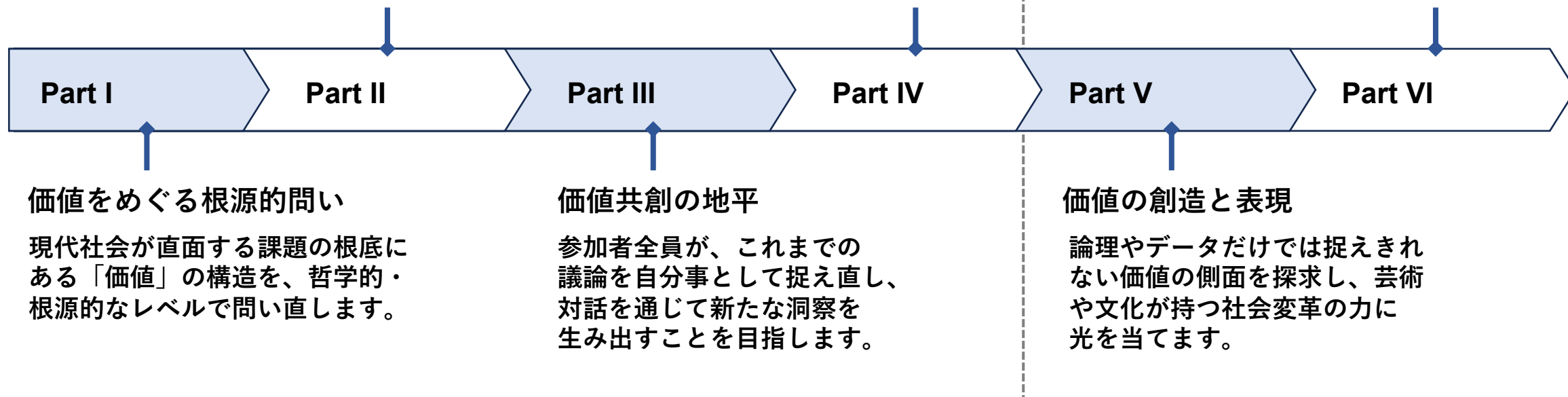
Part Iの根源的な問いを、より具体的な社会領域（産業、ガバナンス、民主主義）に引きつけ、AI時代における社会システムの再設計を議論します。

価値の実装

参加者全員が、これまでの議論を自分事として捉え直し、対話を通じて新たな洞察を生み出すことを目指します。

未来への展望

二日間の議論を統合し、未来に向けた具体的なアクションと、継続的な協働の可能性を探ります。



京都会議プログラムのコンセプト設計 – 1日目

Part I

価値をめぐる根源的問い

パネルディスカッション 1

価値多層性からの出立

- 目に見える社会の具体的な分断や対立（Actionレベル）から、その背景にある社会制度や文化（Bridgeレベル）、さらにはそれらを支える根源的な価値観や世界観（Coreレベル）へと、思考を深く掘り下げる「潜行」のプロセスを体現するセッションです。
- 哲学的な視座から、問題の構造的な要因を解き明かします。

パネルディスカッション2

AIが問い直す『人間』

- AIに代表される根源的な「変容」の力が、私たちの価値観にどのような揺さぶりをかけているのかを多角的に論じます。
- 技術、アート、哲学、ロボット工学の視点を交差させ、「人間らしさ」や「知性」「創造性」といった、これまで自明とされてきた価値の再定義を迫ります。



京都会議プログラムのコンセプト設計 – 1日目

Part II

AI時代における社会の再設計

会場 I

技術変容と企業の未来

- AIによる産業構造の変革が加速する中で、個々の企業が社会的パーパスをいかに具体的な事業活動に落とし込み、経済的価値と社会的価値を両立させるかを探求します。
- 企業の社会的役割や多様なステークホルダーとの関係性が改めて問われる現代において、製造業、情報・メディア産業、科学技術の社会実装といった多様な現場からの洞察を交差させ、AI時代の企業の新たな役割と責任を議論します。

会場 II

信頼とガバナンス

- 地政学的な変動と技術革新が交差する現代において、国家、企業、国際機関といった異なるアクター間で「信頼」をいかにして構築し、実効性のあるグローバル・ガバナンスを築くかを探ります。
- 技術標準、経済協力、次世代教育、市民交流といった多様なレイヤーから、分断を乗り越えるための新たなリーダーシップとルールのあり方を、倫理的な視点も交えながら議論します。

会場 III

民主主義を再構築する

- AIが社会の意思決定に深く関わる現代、民主主義の基盤である「公共性」や「市民的熟議」は、そのあり方を根本から問われています。
- 本セッションは、「民主主義の再構築」をテーマに、AI時代の意思決定をいかにアップデートすべきかを探求します。
- 哲学・社会心理学の知見から都市ガバナンスの実践まで、多様な視点から既存の枠組みを批判的に検討します。その上で、オルタナティブな意志決定プロセスの可能性も視野に入れつつ、より強靱で応答性の高い民主主義のモデルを構想します。



京都会議プログラムのコンセプト設計 – 1日目

Part III

価値共創の地平

会場 I

技術と人間の共生

- AIをはじめとする先端技術は、社会に劇的な変化をもたらす「変容（Transformation）」の力として作用しています。
- この変容は、私たちの生産性を高めるだけでなく、「人間性」「知性」「創造性」といった価値観の根幹を揺さぶり、再定義を迫るものです。
- 本セッションでは、この根源的な問いを前に、技術との未来をどう描くべきかを探求します。技術をどう使うかというレベルに留まらず、この変容の時代に我々が守り、新たに掲げるべき価値とは何かを、多様な視点から議論します。

会場 II

文化の多様性と価値の普遍性

- グローバル化は、異なる価値観の衝突である「分断（Fragmentation）」を、現代の決定的な課題として顕在化させています。
- この分断の根源には、「文化固有の価値を尊重する」という要請と、「その違いを越えて共存するための共通指針を見出す」という要請の間の、創造的な緊張関係があります。
- 本セッションでは、この根源的な問いを前に、分断をいかに乗り越えるべきかを探求します。どちらか一方の正しさを問うのではなく、この緊張関係の中から、多様性を力に変える新たな協働のあり方を、多様な視点から議論します。

Part VI

価値の実装

パネルディスカッション 3

価値から考えた産業界の役割と未来

- 日本を代表する経営者・有識者が、社会の価値観が激変する時代における企業の新たな役割と未来像を、日本の歴史的・文化的文脈を踏まえながら日本語で深く議論します。



京都会議プログラムのコンセプト設計 – 2日目

Part V

価値の創造と表現

パネルディスカッション 4

創造的跳躍：芸術・文化から価値へ

- 根源的な価値観やビジョンを、いかにして具体的な形や行動へと結びつけることができるのか。
- その問いに対し、論理やデータだけでは捉えきれない現実を理解し、創造的な飛躍を触発する「媒介」としての芸術・文化の役割を探求します。

Part IV

未来への展望

パネルディスカッション 5

ネットワーク・オブ・ネットワーク

- 地球規模の課題解決には、分野や文化、国境を越えた協調が不可欠です。
- 本セッションでは、科学外交、人文知の国際的ネットワーク、インクルーシブなAI倫理、先端技術研究といった、それぞれが独自のネットワークを持つ多様な領域のリーダーが一堂に会します。
- 個別のネットワークが直面する課題を共有しつつ、それらをいかに接続し、より大きな社会変革の力となる実効性のある「ネットワーク・オブ・ネットワーク」を構築できるか。そのための共通の価値基盤と実践的なアプローチを探求します。

パネルディスカッション 6

新たなグローバルアジェンダへ向けて

- 二日間にわたる多様な議論を統合し、未来への具体的なアクションへと繋げる本会議の最終セッションです。
- 価値観が多様な世界において、いかにして共有可能な「グローバル・アジェンダ」を形成できるのか。
- 本セッションでは、そのアジェンダを語る「われわれ」という主語のあり方をも問いながら、この場で生まれた知見と繋がりを持続的な知的探求と実践の運動へと繋げる道筋を議論します。

